

学校教育目標(具体目標)

一、敬愛の心があつく心情豊かな生徒
一、よく考え主体的に行動できる生徒
一、体力・気力の充実した健康な生徒

あかね雲
令和4年度 陽西中学校だより

第4号

R4. 6. 20 発行

発行者

校長 鈴木佳之



HP QRコード

全員が「優勝」にふさわしい

6月16日(木)の**体育祭**は、

「闘志を燃やせ!

～最高で最強な仲間と共に～」

のスローガンのもと、学級ごとに一致団結した熱い戦いが繰り広げられました。

競技である限り順位や勝敗がつきますが、ベストを尽くす生徒一人一人の姿は、勝っても負けても、真に「優勝」の文字にふさわしいものでした。真剣に勝負する姿、勝利して喜ぶ姿、負けて悔しがる姿、団体競技で力を合わせる姿、仲間を応援する姿。生徒たちにとって**すべての瞬間が貴重な経験**になりました。さらには見る者にも大きな感動を与えました。



運動会の成功は、これまでの地道な取り組みの積み上げによるものです。それは新学級がスタートした4月下旬から保健体育の授業で「そーらん」の練習を開始し、学級旗づくりや生徒会専門委員会の係活動など多方面から体育祭に向けて準備を進めてきました。生徒たちは、**運動会を通して「たゆまぬ努力、フェアプレー、仲間への思いやり」などの大切さを学び、たくましく成長しました。**3年ぶりとなった保護者参観は、ご家族にとってお子様の成長を確認できる場になったのではないのでしょうか。



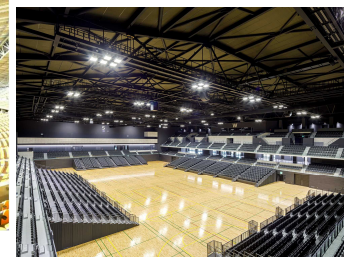
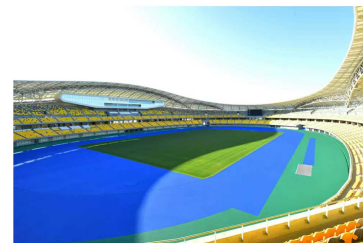
一期一会 (国体開催を機に)

現代の子どもたちの運動離れや体力低下は、学校教育の課題の一つであり、実態として運動やスポーツが得意な子と苦手な子、運動をよくする子とそうでない子の二極化傾向がみられています。その要因は様々ですが、子どもを取り巻く環境の変化、とりわけ「時間」「空間」「仲間」の三つの「間」の減少が指摘されています。友だちと遊ぶ時間や屋外で遊ぶ場所がない、室内遊びやコンピュータでの一人遊びが増えていくことなどが挙げられます。



こうした中、昨年の東京2020オリンピック・パラリンピック、今年の冬季北京オリンピックに続き、我が栃木県で2回目となる国内最大のスポーツの祭典「国民体育大会」があと100日余りで開催されるなど、スポーツへの機運が高まっています。

国体に関しては、県内各運動施設が再整備され、特に国体メイン会場となる栃木県総合運動公園は、約5年をかけて総合スポーツゾーンに生まれ変わりました。すでに中体連の大会会場となるなど生徒たちも恩恵を受けています。



「いちご一会とちぎ国体」の大会愛称について大会HPには、【「いちご」の生産量が半世紀に渡って日本一の栃木県。「いちご王国」で行われる国体に参加するすべての人々が、県民の心のこもったさまざまなおもてなしに出会い、交流を深めることで新たな夢や感動が生まれることを目指します。】とあります。国体開催を県民がスポーツを楽しんだり、来県者と触れ合ったりする絶好の機会と捉えたいものです。

開会式 16本の学級旗と「選手宣誓」



個人走 スタートダッシュが勝負!



絆をつなげ (リレー, 全学年)



サフウェイ特急 1年団体 (背中渡り)



陽西タイフーン 2年団体 (台風の子)



応援綱引き捲り一発 3年団体 (綱引き)



レインボー引き (全学年)



陽西そーらん

